

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年 国語 254人 社会 254人 数学 254人

理科 254人 英語 254人

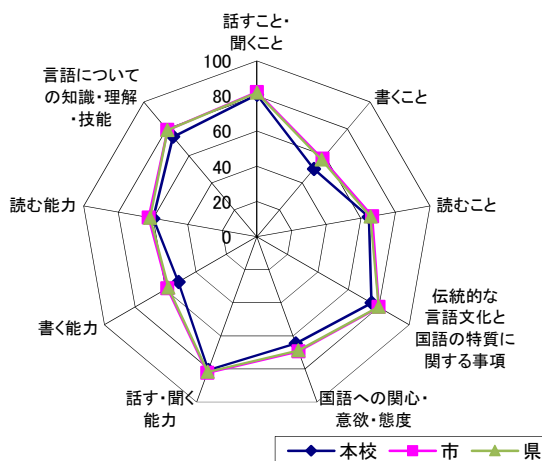
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	80.7	82.3	81.8
	書くこと	50.4	58.0	57.2
	読むこと	64.6	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.2	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	64.6	69.4	68.8
	話す・聞く能力	80.7	82.3	81.8
	書く能力	51.5	58.8	58.1
	読む能力	59.9	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	74.2	79.2	79.1



★指導の工夫と改善

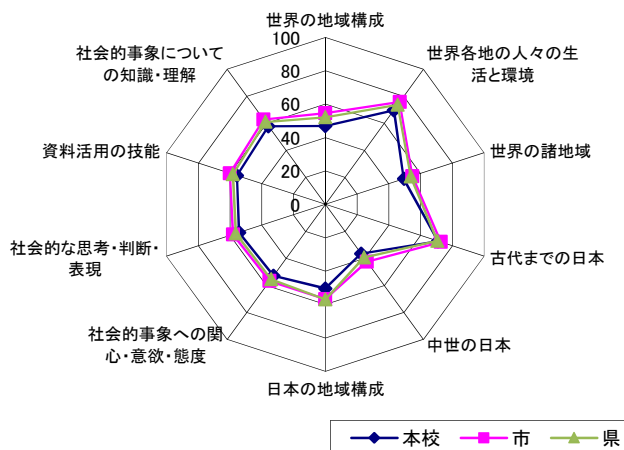
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し合いの内容は正しく聞き取れる生徒が多い。 ●話し合いの内容から、自分の意見をまとめて表現することは苦手な傾向が強い。	・話し合い活動の中で、他人の意見を聞き、自分の意見を補足するなど、視野を広げた活動を工夫していく必要がある。
書くこと	●すべての設問において県の正答率を5%以上下回っている。無回答が多いことから、文章を書くことに抵抗があり、字数制限が多ければ多いほどその傾向が強いことが考えられる。	・100文字程度の感想文を単元ごとに取り入れ、書くことへの抵抗を減らす。また、タブレットを利用して、自分の意見を書くことで、考えを表現しやすいようにする。
読むこと	○物語への親和性が高く、登場人物の心情を読み取る力が高い。表現の特徴にも注目でき、工夫について答えることができています。 ●説明文の要旨は読み取れるが、文章の構成をとらえることは苦手である。	・説明文の授業において、段落の構成や内容について詳しく解説していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の学習に対する意欲は高く、正答率も比較的高い。古典に関する知識も定着している。 ●文法の知識が定着していない。文節、単語の正答率が低いことから、基本的な文法の知識が十分身に付いていないと考えられる。	・文法の授業では復習という形での問題演習を取り入れるなど、定期的に記憶の呼び起こしを行っていく。

宇都宮市立清原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	47.1	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	69.8	75.9	73.7
	世界の諸地域	49.5	54.8	53.9
	古代までの日本	70.9	72.7	70.5
	中世の日本	36.4	42.4	39.3
	日本の地域構成	50.3	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	52.8	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	54.3	58.1	56.4
	資料活用 of 技能	55.7	60.1	58.2
	社会的事象についての知識・理解	58.0	62.9	61.1



★指導の工夫と改善

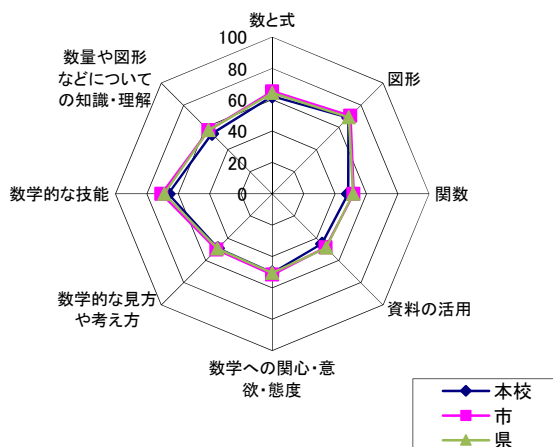
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○モルワイデ図法の特徴について、理解している生徒が半数を超えている。 ●方位を読み取るために適切な図法の地図を選択し、それをもとに判断する問いの正答率が低い。	・様々な図法の地図に触れたことが、興味関心の高さにつながっている。今後も様々な機会を通して、地図に触れる機会を増やしていく。 ・様々な図法の特徴は理解しているが、それを応用して視点を変えた問いに対応できていない。授業の中で、様々な見方、考え方に触れる場面を増やし、社会的な思考力・判断力を高めていく。
世界各地の人々の生活と環境	○標高の高い地域の雨温図から特徴を捉える問いの正答率が高い。 ●乾燥した地域の「オアシス」を答える問いの正答率が低い。	・動画など、視覚に訴える資料を活用し、引き続き世界各地の人々の暮らしや自然への興味関心を高めていく。 ・小テストなど反復学習により、基本的な知識の定着を図る。
世界の諸地域	○ヨーロッパの経済格差について、資料をもとに判断する問いの正答率が高い。 ●オーストラリアの貿易相手国の変化についての問いの正答率が低い。	・複数の資料を組み合わせ、考える場面を引き続き授業に取り入れていく。 ・「世界から見た日本の資源・エネルギー」の単元でオーストラリアの学習に触れ、知識の定着を図る。
古代までの日本	○全体的に正答率が高い。特に弥生時代～古墳時代の日本と周辺の国々との関わりについて、複数の資料を基に考察する問いの正答率が高い。	・古代については、正答率が高いので、引き続き理解の深化が図れるよう課題の与え方を工夫していく。
中世の日本	○建武の新政による政治の混乱についての正答率が、県の平均を2ポイント上回っている。 ●古代に比べると全体的に正答率が低い。特に鎌倉時代の「執権」を答える問いの正答率が低い。	・示された資料を基に考察する場面を、今後も授業の中で意図的に設けていきたい。 ・小テストなど反復学習による基本的な知識の定着を図る。
日本の地域構成	○日本にとって排他的経済水域が、国土に対して広大な面積を占めることを、資料から判断する問いに対する正答率が高い。 ●日本の標準時子午線に対する知識理解が低い。	・示された資料を基に考察する場面を、今後も授業の中で意図的に設けていきたい。 ・基本的事項の定着度を高めるため、反復練習をくり返し行い、知識の定着を図る。

宇都宮市立清原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	62.3	65.4	64.4
	図形	68.7	70.5	69.0
	関数	48.3	51.9	51.5
	資料の活用	44.9	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	50.3	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	49.1	50.2	49.4
	数学的な技能	66.2	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	54.4	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

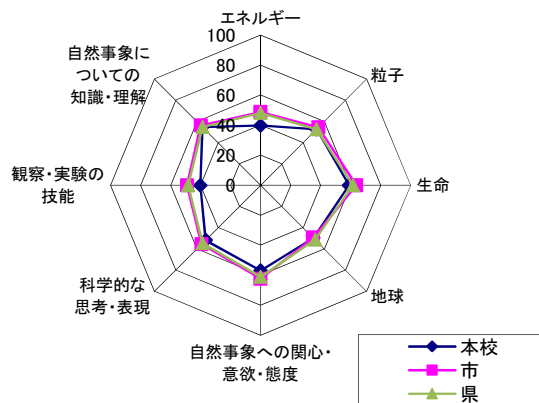
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○平均正答率は市・県平均とほぼ同じである。また、与えられた文章題を一元一次方程式を解いて解決する問題の正答率が県平均と比べ5.2ポイント高くなっている。</p> <p>●県平均と比較し、「比例式の計算」の正答率が-7.3ポイント、「数量の間の関係を不等式に表す問題」の正答率は-5.2ポイント、「一次方程式の解の意味を理解しているかどうかの問題」の正答率が-7.1ポイントであり、今後の課題である。</p>	<p>・中1の正負の数の四則計算の段階でつまづいている生徒もいる。補助教材や自主学習ノート等を活用し、計算の練習を継続的に行い、単元テスト等を行い、達成度が形として分かるようにしていく。</p>
図形	<p>○平均正答率は市・県平均とほぼ同じである。また、直線を軸として回転させるとどのような立体ができるかを問う問題の正答率が県平均と比べ5.9ポイント高くなっている。</p> <p>●県平均と比較し、「おうぎがたの面積」や「三角形の高さを作図する問題」の正答率が低い傾向がある。</p>	<p>・空間図形が課題である。特に空間図形に関する知識の部分は使用頻度が少ないこともあり、正しく理解していない生徒がいるのが現状である。作図の基本的な方法や知識を身に付けさせるだけでなく、それらを用いて他の問題に応用する力も身に付けさせていく。</p>
関数	<p>○平均正答率は市・県平均とほぼ同じである。</p> <p>●県平均と比較し、「関数の意味を問う問題」の正答率が7.0ポイント低く、「比例のグラフをかかせる問題」の正答率が6.6ポイント低く、今後の課題である。</p>	<p>・式化することができても、活用ができていない生徒がいる。式をつくらせる支援だけでなく、それぞれの文字がどのような数量を表しているかを理解させ、いろいろな場面で活用できる力を育てるようにする。記述も苦手なので、自分の言葉で筋道を立てて記述する習慣をつけるとともに、説明させる機会をつくる。</p>
資料の活用	<p>○平均正答率は市・県平均とほぼ同じである。</p> <p>●県平均と比較し、「相対度数を求める問題」の正答率が7.7ポイント低く、「累積度数を求める問題」の正答率が8.8ポイント低く、今後の課題である。</p>	<p>・相対度数や累積度数の求め方だけでなく、その値の持つ意味を理解させる。また、単に求め方や意味を理解するのではなく、身の回りの事例なども参考にしながら、記述したり説明したりする活動を授業の中で行っていく。</p>

宇都宮市立清原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	39.8	48.8	48.1
	粒子	52.8	54.4	52.6
	生命	58.9	63.7	61.5
	地球	49.7	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	56.9	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	51.8	55.7	54.8
	観察・実験の技能	40.2	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	54.9	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

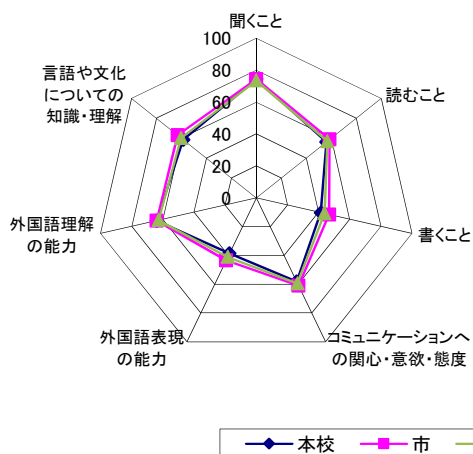
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ○音は空気の波で伝わることを指摘する問いの正答率が高い。 ●実像を作図する問いの正答率が低い。 ●焦点距離の2倍の位置に物体がある場合の実像の大きさと向きを選ぶ問いの正答率が低い。 ●音を高くする方法と振動数の関係を選ぶ問いの正答率が低い。 ●おもりの重力とばねののびとの関係をグラフに表す問いの正答率が低い。 ●おもりにてはたらく2力のつり合いを選ぶ問いの正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実像を作図するには、凸レンズに入る光がどのように屈折するかを理解していないと書けない。作図に必要な光線は2本だけなので、ポイントを押さえて練習時間を十分にとり、正しい作図ができるよう復習する。 ・物体の位置と実像の大きさの関係、音の高さと振動数の関係など、きちんと整理して覚えないと間違えやすい。自分で表にまとめさせることで正しく理解させたい。 ・理科では比例のグラフを書く機会が多い。散らばった点の中に正しい直線を書くのは難しい。今後もグラフを書くことがあるので、丁寧に時間を書けて指導したい。
粒子	<ul style="list-style-type: none"> ○密度を求めて、金属を特定する問いの正答率が高い。 ●水素の発生方法を選ぶ問いの正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メスシリンダーを用いて体積を量る方法を理解しており、密度も正しく計算できた。今後も計算練習を行っていきたい。 ・気体の発生方法や性質については、今年度、原子・分子を学習したのでなぜその気体が発生するかを化学反応式で説明して理解させたい。
生命	<ul style="list-style-type: none"> ○両生類の呼吸のしかたに関する問いの正答率が高い。 ●マツの花粉の空気袋のはたらきを推測し、説明する問いの正答率が低い。 ●貝が軟体動物であること指摘する問いの正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推測したり説明したりすることを苦手としている生徒が多い。グループで話し合う機会が多いが、その前に自分の考えをきちんとまとめて説明させ、表現する力を身に付けさせたい。 ・体が柔らかい動物を全て軟体動物と判断している。紛らわしい動物を細かく説明して、正しく理解させたい。
地球	<ul style="list-style-type: none"> ○火山岩のつくりに見られる石基を指摘する問いの正答率が高い。 ●火山岩がどのようにできたかを説明する問いの正答率が低い。 ●サンゴが示相化石であたたくて浅い海に生息することを選ぶ問いの正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・斑状組織を正しく理解している。 ・同じマグマでも、冷える時間の違いで火山岩と深成岩に分かれる。水溶液から結晶を作る実験などを例にして正しく理解させたい。 ・示相化石と示準化石を逆に覚える生徒が多い。「相」「準」の意味を丁寧に説明して正しく理解させたい。

宇都宮市立清原中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	74.5	74.4	73.5
	読むこと	56.2	58.7	56.9
	書くこと	41.5	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	58.2	61.0	59.4
	外国語表現の能力	38.6	43.5	41.1
	外国語理解の能力	63.9	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	58.4	62.9	60.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○聞こえた英語の内容を適切に理解し、正しい絵を選択する問題では、県の平均を上回っている。</p> <p>●対話文や、英文の概要や要点を理解することに課題がある。</p>	<p>・授業内で、クラスルームイングリッシュの使用頻度を高め、生徒が英語を聞く機会を増やす。</p> <p>・説明文や対話文を聞いて、概要を捉えたり、必要な情報を把握するような練習を機会を増やす。</p>
読むこと	<p>○まとまった英文から内容を理解したり、必要な情報を把握する問題では、県・市の正答率を上回る設問がある。</p> <p>●語形や語法に関する知識・理解に課題がある。</p>	<p>・授業内での会話活動を通して、語形や語法の知識・理解を定着させる。また、ターゲットとなる語形や語法を使って自分のことを表現する機会を多く設ける。</p> <p>・語形や語法の知識を定着させたいうえで、まとまった英文から必要な情報や内容を読み取る練習機会を増やす。</p>
書くこと	<p>○単語を並び替え、正しい語順で答える問題では高い正答率であった。</p> <p>●自分自身のことについて英語で書いたり、対話の流れをに合った英文を書くことに課題がある。</p>	<p>・正しい語形・語順を身に付けさせたいうえで、自分のことについて表現する(話す・書く)機会を授業内で多く設ける。</p> <p>・語彙力を身に付けさせるような活動を行い、生徒が自分で学習できるような方法を指導する。</p>

宇都宮市立清原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分で計画を立てて勉強している。」「学校の宿題をしている。」「学校の授業の予習をしている。」「学校の復習をしている。」など、家庭学習に関わる項目では、肯定的な答え「はい」「どちらかといえば、はい」と回答している生徒の割合が高い。特に「授業の予習をしている。」では県平均を4.4ポイント上回った。今後も自主学習への取組を指導し、その内容や質の向上を図りたい。

○「学習して身につけたことは、将来の仕事や生活の中に役立つと思う。」や「毎日の生活が充実していると感じている。」の質問では肯定的に答えた生徒の割合が90%以上と高く、いずれも県や市の平均を上回っている。社会体験学習の事前学習や各教科での指導の成果であると考えられる。今後も各教科・領域におけるキャリア教育を充実させていきたい。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」や「友だちと話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。」という質問では、肯定的回答の割合が高い。学級での雰囲気づくりなど学級担任による学級経営の成果といえる。今後も学級活動や各教科の学習で小グループでの話し合いや、建設的なクラスでの討議、司会進行の役割を果たす生徒の育成など、話し合い活動や対話を通して深く考える態度を育てていきたい。

○「人と話すことは楽しい。」「誰に対しても、思いやりの心をもって接して言える。」という質問では、90%以上の生徒が肯定的に答えていて、思いやりの心を持つ生徒が多い。今後もお互いの良さを認め合えるよう学校と家庭が連携して指導・承認・称賛を繰り返し続けていきたい。

●「難しい問題にであうと、よりやる気がでる。」という質問では肯定的な回答が40%を下回った。難問にチャレンジする意欲を育て、挑戦する気持ちを育てていきたい。

●「グループの話し合いに自分から進んで参加している。」生徒は80%近いが、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」という生徒が45%を下回った。発表に慣れていない面が見られるので、発表の機会を増やしていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の定着。 ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習ノートによる家庭学習の充実 ・「今日のめあて」の提示の工夫 ・「振り返り」の効果的な実施 ・ICTを活用した個に応じた分かりやすい授業 	<p>「家で学校の授業の予習をしている」に肯定的に回答した生徒の割合が、県平均を4.4ポイント上回っている。</p> <p>「できるだけ自分1人の力で課題を解決しようとしている」に肯定的に回答した生徒の割合が、県平均を4ポイント上回っている。</p>

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>国語、社会、理科、英語において、記述形式で答える問題の正答率が県平均より5ポイント以上低いものがあった。</p>	<p>思考力・判断力・表現力等の育成</p>	<p>思考力・表現力等を育成するために、授業において自分の考えを書く活動を位置付ける。さらに、書く活動と「説明」「話し合い」などの活動を関連付け、判断力・表現力等を身に付けさせる。</p>